

また、バックパックは膨れてくるに従って背後や周囲にベルトを長くしておくとそのリスクも増すだけでなく左右背後にまでよく注意を払い、非常に混雑しているに身体の前面に抱えるようにするのがマナーだ。

混雑の中では本を買う度にバックパックを上げ下ろし、それだけ周囲にトラブルを引き起こすリスクが大きくなるので、混雑内ではサブバッグを使用して購入した本は、それに納め、後でゆっくりと詰め直せばバックパックの整理できて一石二鳥だ。



3: ショルダーバッグ

とりあえず収納量、取り回し、コンパクトさ、防水など基本機能、価格いずれの面でも現在のところ『とりあえず』といえるのが肩からかける、または肩にかけるタイプのものはあるが、ベルトとバッグ本体が分離できるタイプの物

のだと接合部がすり減ったり加重変形して耐久性が低下し、と吉（特に接合部がダイキャストなどの金属パーツだと瞬間的に大過重がかかった場合に割れてしまう可能性がある）ので、あまり華奢で繊細な金具を使用しているものは避けるのが賢明だ。

ベルトの肩に当たる部分にはソフト素材のショルダーパッドを付けておくとも重量が増えても楽に持ち運べるので事前に探してみよう。また、これらのバッグもベルトを長くしておくとも混雑の中で人と人の間にバッグを挟まれてしまうことがあるので、ベルトは短めにし、バッグ本体を身体に密着させるようにしよう（ベルトをたすきかけにするならバッグ本体を背後にまわした時にお尻の上、腰に密着するくらい、肩かけなら肘の内側でバッグ本体の真中あたりを押えるくらいの長さにしておくとも混雑時にもひっきりなくいい）。

ちなみにショルダーバッグ類の中でもメッセンジャーバッグは、基本的にプロ仕様なので、ショルダーベルトの長さを背負ったまま片手で調整できる機能をはじめ、防水性、中身の出し入れ、容量、中のポケットの配置など、コミケットの環境下でもトップクラスに使い勝手が良くおすすめだ。

●大事な物は大事にしよう●

バッグそのものとは直接関係がないが、時にトートバッグや紙袋に詰めた戦利品の上に無造作に財布を乗せて移動している人を見かける。

単に購入量が多くなりすぎて財布の入れ場所が無くなっただけかもしれないが、言うまでも無くあらゆる面で非常に危険である。せめて財布とバッグの持手をヒモやチェーンで繋ぐ工夫をしよう。

本来戦利品バッグとは別に財布や他の貴重品を入れるミニショルダーやウエストバッグ、ベルトポーチなどを用意しておくのは基本だ。もちろん、その上で同人誌購入用軍資金と往復の交通費や諸経費、Suicaなどは別の財布に入れてバッグの奥にしっかりしまっておくこと！

後悔先に立たず、である。

■■困っている人には気軽に声を手を■■

参加者同士の上手な助け合いはコミケットの誇るべき伝統のひとつだ。

『みんな参加者』であるコミケットの会場では、困っている人を助けるのはなんにもスタッフの作業と決まっているわけではない。ほんの小さなことでもいい、自分にできそうなことがあったら積極的に手を貸してあげよう（もちろん、コミケットへの行き帰りの交通機関や駅の中でも、それは同じだ）。

いくら準備をしても、大丈夫だと思っていても、自分もいつ何時、どんなトラブルに巻き込まれるか分からない。そういう時に人の親切は何よりうれしいものだ。

困っている時に助けを申し出てもらった場合は遠慮なく手を貸してもらい、よくお礼を言おう。参加者にはマンガレポートというお礼ツール(?)もあるから、あなたなりの感謝を1コマに込めて、より多くの参加者に対する呼びかけにすることもできる。いつかマンガレポートから『ひんしゅく(罽)』の項が消え、『感謝・感激』の項でいっぱいになるようにしたいものだ。

そのためにも、参加者1人1人が自分の周囲で困っている、辛そうにしている人はいないか、よく注意しておく習慣を身に付けよう。

※ CD-ROM版カタログにはマンガレポートは掲載されていません